序　論

Introduction

1 わたしたちのまち高松市 ･････････5～

2 高松市を取り巻く状況･････････21～

3 高松市の課題 ･･････････････････24～

4 総合計画の基本的な考え方･････29～

1 わたしたちのまち 高松市

あなたは、この高松でどんな未来を描きますか?

海が近く、中心市街地はにぎやかで、ちょっと足を延ばすと田園風景や秀麗な山並みが広がっています。
また、多島美を誇る瀬戸内海の景色は美しく、国内だけでなく、海外からも評価されています。

こうした豊かな自然と都市機能が調和した、暮らしやすい、豊かなまち高松を、わたしたちはみんなで次の世代につないでいかなければなりません。

年月が過ぎ、時代が変わっても、活力を失わずに、誰もが幸せに暮らせるまち高松であるために、わたしたちは力をあわせてまちづくりをしていく必要があります。

行政だけでは実現できません。
市民や企業、さまざまな方々が一丸となって、ともにまちづくりを進めていくことが大切です。

そのために、理想と実現への道すじを、この第7次高松市総合計画にとりまとめました。
このまちの未来をともに描いていきましょう。

第7次
高松市総合計画

1 10年後のあなた

あなたは、10年後何をしていると思いますか?

10歳のあなたは20歳、20歳のあなたは30歳、30歳のあなたは40歳、40歳のあなたは50歳、50歳のあなたは60歳、60歳のあなたは70歳・・・小学生が大学生、大学生が社会人、単身者が子育て世代へと、活躍するフィールド、ライフスタイル、趣味・趣向など、年を重ねるごとに変化していきます。

高松で暮らす、全てのあなたが、10年後も20年後も、住みやすい、働きやすい、子育てしやすいと感じ、幸せな生活を送ることができるまちをつくっていくことが大切です。

あなたが、高松のことをもっと知り、好きになり、誇りを持ち、高松のことをみんなに伝えたいと思うようになれば、未来の高松は輝いていることでしょう。

～10年後の声～

全ての世代

市としても、地域・個人レベルでも、南海トラフ巨大地震に備えが進んでいて、心強いです。
災害に対する不安の少ないまちになってきていると感じています。

近頃は交通マナーの良いまちになってきています。
歩行者や自転車で移動する人の通路も整備が進んでいて、快適です。

小さい子どもが安全に遊べる施設が充実していると感じています。
子育て世代の横のつながりがあり、子育てしやすい環境です。

子育て世代

出産後復帰できて、子育てしながら長く働き続けられる職場で良かったです。
子育てをする社員への理解も醸成されていると感じています。
保育所へも待たずに、入所させることができました。

ひとり親世帯になったときは不安があったけれど、行政の支援のおかげで安心して生活できています。

働く世代

キャリアアップやキャリアチェンジを考えていましたが、そういった社会人の学びなおしに対するニーズに呼応した支援が、行政のバックアップもあって拡がってきています。

テレワーク・在宅勤務が進んでいて、休暇取得のしやすさなど、柔軟な働き方ができる会社が増えている気がします。
企業誘致も積極的で、職業・職種の選択肢も広いと感じています。

若者世代

仕事の選択肢の幅が広くて、若い世代が就職しやすい環境が整っていると思います。

大学から市外に出たけれど、やっぱり高松で暮らしたくなって戻ってきました!

高齢世代

まだまだ働けると思っていたので、高齢者が働きやすい職場づくりが進んでいて、これからも仕事を続けられそうです。

単独世帯であっても高齢者支援についての周知が行き届き、見守りサービスが充実していて、住みやすいまちだと思います。

地域活動をはじめとした社会参画が盛んで、世代を超えた交流が日頃からあるから健康に暮らせている気がします。

障がい者

障がいをもってからも、住み慣れた地域で安心して仕事を続け、生活できています。
道路や公共交通のバリアフリー化が進んでいて、安心して通勤できます。

学校でパラリンピアンの選手の授業があって、すごく楽しかったです!
今度、大会ボランティアに参加してみたいと思っています。

2 これまでの高松市の歩み

これまでの“高松市”の歴史を振り返ってみましょう。

本市の歴史は、約2万年前まで遡ります。

当時の日本は旧石器時代にあたり、石器を用いた狩猟採集生活が行われていました。

五色台（国分台）周辺は、石器の材料であるサヌカイトの産出地であり、ここで製作されたサヌカイト製石器は、瀬戸内地域を中心に西日本の広い範囲で発見されています。

◆縄文時代（約1万5000年前～）から弥生時代（約2800年前～）

平野中央部から丘陵部、海岸線付近まで、広い範囲に集落が点在していました。

特に、弥生時代には、本格的な稲作が開始され、本市を含む瀬戸内地域の沿岸部や島しょ部で、土器を用いた塩づくりが盛んに行われました。

また、四国内を始め、山陽・山陰・近畿・北部九州等、他地域産の土器等が本市の遺跡から出土する一方、本市産の土器が他地域で発見されるなど、この時期から既に西日本の各地との交流が行われていました。

◆古墳時代（約1800年前～）

本市でも山麓や山頂部等を中心に、約500基以上の古墳が築造されました。

中でも、本市を特徴づける古墳として、石清尾山古墳群の「積石塚（つみいしづか）」があります。

「積石塚」は、古墳時代初期に、峰山や稲荷山の山上を中心に、西は善通寺市から東は徳島県まで、四国北東部地域で確認されている、石を積み上げて造った珍しい古墳です。

石清尾山古墳群では、一般的な前方後円墳だけでなく、全国で唯一確認されている円丘部を挟んで両側に方丘部が取り付くリボンのような形の双方中円墳が造られるなど、他の地域では見られない独自の文化が形成されていました。

積石塚

上空から見た石清尾山古墳群

◆古代（約1400年前～）

663年に朝鮮半島で行われた日本・百済（くだら）遺民連合軍と唐・新羅の連合軍との「白村江（はくすきのえ）の戦い」の敗戦の後、唐・新羅の日本への侵攻に備え、北部九州から瀬戸内地域にかけて複数の山城が築造されました。

その一つが667年に造られた屋嶋城（やしまのき）で、天然の要害である屋島の地形を巧みにいかして、城門や石垣、石塁等の城壁が整備されていました。

当時の屋島は、畿内の政権中枢を守るための重要拠点に位置付けられたと言えます。

その後、屋島は、源平合戦（「治承（じしょう）・寿永（じゅえい）の乱」）の際、平氏側が陣と内裏を置いたことにより、元暦2（1185）年に「屋島の戦い」の戦場となりました。

源氏側の那須与一が、平氏側の船上に立てられた扇の的を射抜いたとする逸話も生まれるなど、屋島・牟礼周辺には、「屋島の戦い」に関わる多くの伝承地が残され、様々な形で現在まで語り継がれています。

屋嶋城

◆中世（約900年前～）

この頃、現在の高松市街地は「野原」と呼ばれていました。

「野原」は当初、漁村でしたが、港湾施設等の建設が行われ、西日本各地からヒトやモノが集まる中で、多くの寺院、それを庇護する小領主層を有する経済基盤の整った「海に開かれた港湾都市」として発展していきました。

このような歴史的背景が、後の高松城築城や城下町の整備、ひいては「四国の玄関口」、「瀬戸の都」としての現在の市街地形成の基礎になったと考えられます。

～市名である「高松」の由来～

平安時代中期の史書にみられる「多加津（たかつ）の郷」（現在の古高松地区にあった港町「高松郷」）であり、讃岐一国の領主となった生駒氏が天正16（1588）年に高松城築城に際して、現在の高松城周辺の地名を「野原」から「高松」に改名したのが始まりであるとされています。

～「屋島がなぜ“やしま”なのか」～

現在の地形からは、とても想像できませんが、その昔、屋島は“島”だったのです。

当時の海岸線は、現在の木太町周辺まで入り江状に大きく入り込み、そこに阿讃山脈を源流とする香東川や春日川等、幾筋もの川が流れ込んでいました。

屋島は、その地の利から、政治・軍事上で重要な役割を担いながら、ヒトとモノが行き交う瀬戸内海の交易拠点でもありました。

上空から見た屋島

～“鎮護（ちんご）国家”の象徴　讃岐国分寺・国分尼寺～

讃岐国分寺・国分尼寺は、本市の古代を語る上で欠くことができません。

讃岐国分寺・国分尼寺は、天平13（741）年に聖武天皇の命により、当時の讃岐国の政治の中心地であった国府（坂出市府中町）に近い現在の地に建立されました。

国分寺は、七重塔や金堂、講堂、僧房等の建物が配された荘厳な寺院で国家の安寧を祈願していました。

その法灯は、現在まで受け継がれ、四国霊場の札所寺院として多くのお遍路さんが訪れる、四国唯一の国特別史跡に指定されています。

讃岐国分寺

1587～1868年

近世都市・高松城下の繁栄と幕末の動乱

安土桃山

天正15
(1587)年

生駒親正が讃岐の領主となる

天正16
(1588)年

生駒親正が高松城を築き、城下町を整備する
その際、「野原」を山田郡高松郷の名称をとり「高松」と改名する
生駒家による城下町の整備、高松松平家による城下町の拡大と産業振興

江戸

寛永19
(1642)年

松平頼重が高松藩12万石の城主となる
➡城内や城下町の再整備に着手
その後の歴代藩主による産業奨励により、讃岐漆器、
盆栽、獅子頭などの工芸が発展する
外堀に架けられた「常盤橋」が「讃岐五街道」の起点となるなど、
城下町が交通の要衝にもなる

高松市歴史資料館蔵

正保元
(1644)年

地下水を用いた上水施設(※)が整備される
(地下水を用いた上水施設としては国内最古例)
※今井戸、大井戸等の貯水施設を設け、土管や木樋、箱升等を地中に埋めて配水するもの

文化2
(1805)年

高松城下東浜に新湊町が造成、問屋が移される
➡他国の人や物が集まりにぎわう

文久3
(1863)年

海防の強化のため、幕府の命を受けて、屋島長崎の鼻に砲台を設置

慶応4
(1868)年

高松藩兵鳥羽伏見の戦いで官軍に発砲、朝敵となる

土佐藩を中心とする征伐軍が高松に進駐、
高松藩の領地領民が土佐藩預りとなる

1869～1890年

明治期の分県運動と「高松市」の成立

明治

明治2
(1869)年

松平頼聰が高松藩知事に任ぜられる

明治3
(1870)年

高松藩庁を高松内町旧松平邸に置く

香川県立図書館デジタルライブラリーから転載

明治4
(1871)年

廃藩置県により、高松県が設置される
高松・丸亀及び旧多度津領を編入、香川県が設置される(第一次)

明治6
(1873)年

香川県が名東県(阿波・淡路)に合併される

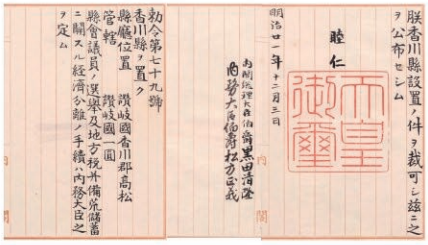
明治

明治8
(1875)年
名東県から分離して、再び香川県となる(第二次)

明治9
(1876)年
香川県が愛媛県に合併される

明治15
(1882)年
「讃予分離」の檄文を出し、分県運動が起きる

明治18
(1885)年
「予讃分離の建議書」を内務卿に提出


国立公文書館蔵

明治21
(1888)年
中野武営が愛媛県会議長に選任され、議長在任中、愛媛県から讃岐地方を香川県として独立させることに奔走

愛媛県を分割して、三たび香川県が独立
➡全国で最も遅い県としての独立

公益財団法人
松平公益会蔵

明治23
(1890)年
香川県の県庁所在地として、全国で40番目の市となる
➡市制町村制の施行から遅れること1年、四国では最も遅い市制施行
最初の仮市庁舎を福善寺(現在の御坊町)に置き、高松市政を開始

1894～1945年

主要公共交通網の整備による「四国の玄関口」成立と高松空襲

明治～戦前

明治27
(1894)年
色を変えない松の緑に市の悠久繁栄を祈念して、市章を制定

明治30
(1897)年
高松駅開業、讃岐鉄道が丸亀 ― 高松間の鉄道運転を開始(現在の予讃線)

明治33
(1900)年
新築港の落成と讃岐汽船が岡山 ― 高松間の航路を開設
➡宇高連絡船の前身となる

多度津町立資料館蔵

明治43
(1910)年
宇野駅と高松駅を結ぶ宇高連絡船の就航
➡本州と四国を結ぶ主要航路となり、「四国の玄関口」となる

大正3
(1914)年
香川郡宮脇村と合併、宮脇町・西浜新町ができる

大正10
(1921)年
東浜村と合併、福岡町、松島町、花園町、塩上町ができる

栗林村と合併、藤塚町、中野町、花ノ宮町、上之町、桜町、楠上町ができる

昭和3
(1928)年
高松市主催による全国産業博覧会を開催

戦前～戦中

昭和9（1934）年
瀬戸内海が雲仙や霧島とともに我が国で初めての国立公園（瀬戸内海国立公園）として指定される

屋島が史跡・天然記念物に指定される

高松市歴史資料館蔵

昭和10（1935）年
高徳線全線開通

土讃線全線開通

昭和15（1940）年
鶯田村、太田村、木太村、古高松村、屋島町と合併

昭和20（1945）年
高松空襲
➡旧市街の80％が焼失

高松市平和記念館蔵

1949～2023年

戦後復興から、世界へ誇る瀬戸の都・高松へ

戦後～昭和後期

昭和24（1949）年
観光高松大博覧会開催
➡観光都市高松として全国から注目され、その後、国の地方機関や企業の支社が置かれるなどの契機となる

（株）乃村工藝社蔵

昭和28（1953）年
栗林公園が特別名勝に、讃岐国分寺跡が特別史跡に指定される

昭和31（1956）年
香川郡香西町、仏生山町、一宮村、円座村、木田郡川添村、前田村、三谷村など15か町村との大合併
➡広域都市となり四国の中枢管理都市としての受け皿が整う

昭和36（1961）年
アメリカ合衆国のセント・ピーターズバーグ市と姉妹都市提携

昭和39（1964）年
第1回高松まつり開催

昭和41（1966）年
木田郡山田町と合併

昭和48（1973）年
高松砂漠（異常渇水）

早明浦ダムが完成

昭和49（1974）年
香川用水が通水、綾川浄水場から給水を開始

昭和54（1979）年
現在の市庁舎の落成

昭和55（1980）年
高松市民のねがいを制定、市制90周年記念式典で発表

昭和後期～平成以降

昭和61 (1986)年	都市公園として中央公園が開園
昭和63 (1988)年	瀬戸大橋開通 フランスのトゥール市と姉妹都市提携
平成元 (1989)年	新高松空港開港
平成2 (1990)年	市制施行100周年記念式典 中国の南昌市と友好都市提携
平成4 (1992)年	高松自動車道　高松 ― 善通寺間が開通 ➡瀬戸中央自動車道と接続し、本州と四国を結ぶメインルートとなる
平成6 (1994)年	高松砂漠の再来と言われた異常渇水が発生
平成11 (1999)年	中核市へ移行
平成13 (2001)年	現在の高松駅が完成
平成14 (2002)年	高松自動車道　板野 ― 鳴門間が開通 ➡神戸淡路鳴門自動車道と接続し、京阪神方面へのメインルートとなる
平成15 (2003)年	高松自動車道（徳島県鳴門市～愛媛県四国中央市）が全面開通
平成16 (2004)年	サンポート高松グランドオープン 高松市文化芸術ホールが開館 台風16号による高潮災害
平成17 (2005)年	塩江町と合併
平成18 (2006)年	牟礼町、庵治町、香川町、香南町、国分寺町と合併 ➡現在の市域となる
平成18 (2006)年～	「高松丸亀町壱番街」がオープン（その後、平成22年に「高松丸亀町弐番街」、「高松丸亀町参番街」、24年には「丸亀町グリーン」が順次オープン）
平成22 (2010)年	「瀬戸内国際芸術祭2010」の開催 高松市自治基本条例の施行
平成28 (2016)年	G7香川・高松情報通信大臣会合開催
平成29 (2017)年	台湾の基隆市と交流協定締結
令和5 (2023)年	G7香川・高松都市大臣会合開催

（出典）
高松市
「高松百年史」昭和６３年３月３１日発行
「高松百年の歴史」平成２年３月３１日発行